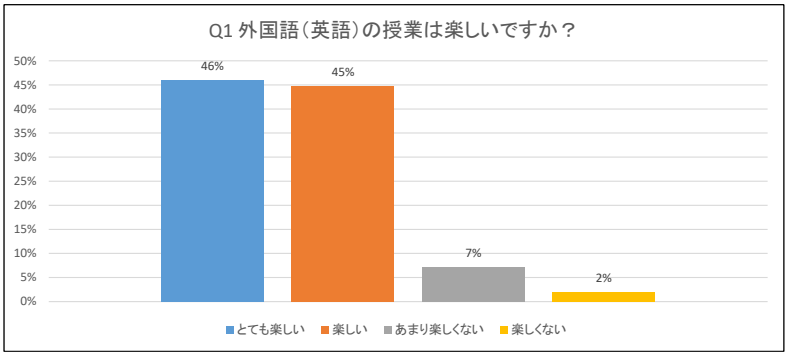
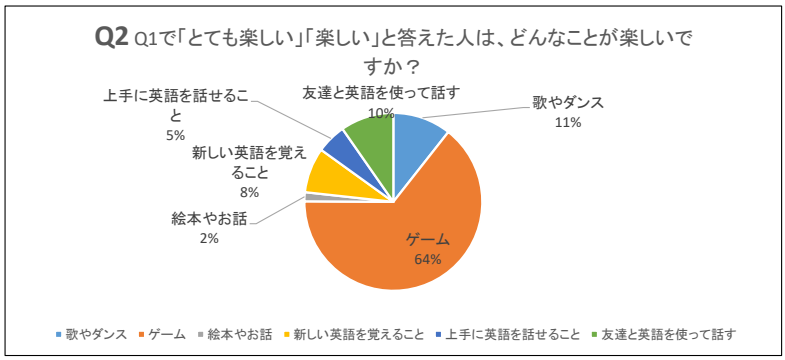
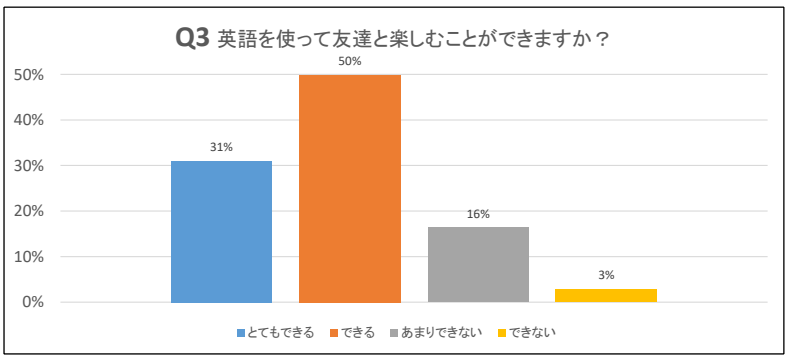
令和7年度外国語（英語）の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察（宇城市）



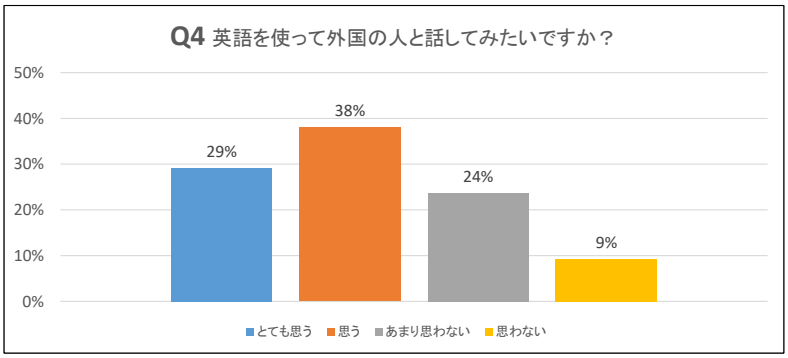
【Q1について】
全体的に見ると、「とても楽しい」「楽しい」の割合が9割を超えていて、ほぼ昨年度と同様の傾向となっている。
学年ごとに見ると、1～3年では95％程度、4～6年では85％程度の児童が楽しいと答えている。このことから、英語の学習に対して児童が意欲的に取り組む姿勢を大切にしながら、今後も継続して楽しく学べるような授業を進めていくことが大切である。
反面、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童も、数としては少ないが昨年度と同様にすべての学年で一定数いることから、個々の実態を考慮した指導方法の工夫改善を図っていく必要がある。



【Q2について】
全体的な傾向としては昨年度と同じで、「ゲーム」「歌やダンス」が楽しいと答えている児童が多い。「ゲーム」については、全学年とも楽しいと答えている児童が多く、指導者が教材・教具や指導方法を工夫して取り組んでいることが分かる。また、高学年になると、「友達と英語を使って話す」「上手に英語を話す」の割合が高くなっている。
特に今回は、「新しい英語を覚える」ことが、高学年で昨年度より増加している。このことから、新しい単語など学んだことを実際に相手に話して使ってみることで、より英語に対する興味・関心が高まっていくと考えられる。また、学年の発達段階に応じた学習活動を工夫していくことも大切である。



【Q3について】
「とてもできる」「できる」の割合が81％で、昨年度と比較して同じ傾向となっている。実際に英語の授業を参観してみると、学習した英語を活用しながら、児童同士が生き生きとコミュニケーションを取り合っている様子が窺える。授業で学んだことを生かして、積極的に英語に慣れ親しもうとする児童が増えている。授業において、指導者が基礎的・基本的な表現を繰り返し練習し定着を図ることで、児童が自信をもってコミュニケーションを図ることができるようになっている。
一方、「あまりできない」「できない」と答えた英語に対して苦手意識をもつ児童も2割近くいることから、「英語を話すことは楽しい」と思えるような学習活動に取り組む必要がある。



【Q4について】
「とても思う」「思う」が67％で、昨年度より若干減少している。授業で学んだことを実際に活用してみたいと思う児童が全体の7割程度いるが、話してみたいと思わない児童も3割程度いて、その割合が中学年から高学年にかけて増えている。
以上のようなことから、まずは児童が自信をもって英語を話したり交流したりできるように、学習内容の定着を図ることが大切である。
また、ALTの先生と積極的に交流する機会を増やしたり、ICTを活用して他国の同世代の児童と交流する学習を設定したり、生成AIで英会話のバーチャル体験をしたりすることにより、英語を話すことに対する抵抗感を軽減する工夫が大切である。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】
各校の学校評価等では、早期からの英語教育に対して概ね高い評価となっている。保護者や学校関係者が、外国語教育に対して高い関心を示しており、その期待の高さが感じられる。今後とも、児童が楽しみながら英語や外国の人と積極的に触れ合うことにより、英語を使ったコミュニケーション力を高めたり、外国に対する理解を深めたりしていくような取組を進めていくことが大切である。
また、英語の学習に対する授業参観を望む声もあることから、各学校にも授業公開等を呼びかけていきたい。

【考察・今後の展望等】
ほとんどの項目において、「楽しい」「できる」と回答した児童の割合が多く見られる。このことから、指導者とALTの先生との協力的な指導や、児童の学習意欲を高める指導方法の工夫改善により、取組の成果が表れていると考えられる。
ただ、1・2年の英語活動の教材・教具に課題が見られたことから、新教材「小学校英語SWITCH ON」を導入し、本年度から取組を進めるようにする。各学校とも協力し、年間計画作成や研修会を通して、共通理解や共通実践を進めていくようにする。